

年度 2009 学期 前期	曜日・校時 水2	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	言語と芸術(近代欧米における表象文化) Language and Art (Modern Culture and Representation in Europe and North America)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 針貝 綾 /Eメールアドレス: aharikai@nagasaki-u.ac.jp /研究室: 教育学部美術棟 2階 /TEL: 819-2347 /オフィスアワー: 水曜3校時			
担当教員(オムニバス科目等)	針貝 綾		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 19世紀末から20世紀中葉までの欧米における表象文化について理解を深め、特に美術とデザインの主要な様式やイズムについての知識を身に付けることができるようになる。  授業方法: パワーポイントなどの視覚的教材や教科書、プリント教材を使用する。また、視覚教材を見た後に作品について分析したり、プリント教材を見ながら主要な様式やイズムについて考察したりする。  授業到達目標: 19世紀末から20世紀中葉までの欧米における表象文化について理解し、美術とデザインの主要な様式やイズムについて説明できるようにする。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 19世紀末から20世紀中葉までの美術とデザインの主要な様式とイズムを柱とし、作品を時系列に観察し、分析しながら、欧米における文化現象をその社会的、経済的背景などから多角的に考察していく。  第1回 オリエンテーション、ジョンラスキンの中世主義 第2回 イギリスにおけるアーツ・アンド・クラフツ運動—モリス商会とグラスゴー派— 第3回 フランスとベルギーにおけるアール・ヌーヴォー—アール・ヌーヴォー店とヴァン・ド・ヴェルド— 第4回 ドイツにおけるユーゲントシュティル I—雑誌『ユーゲントシュティル』と新美術工芸運動— 第5回 ドイツにおけるユーゲントシュティル II—ダルムシュタット芸術家コロニー— 第6回 ウィーンにおけるユーゲントシュティル—ウィーン分離派とウィーン工房— 第7回 ドイツ表現主義の絵画・彫刻・建築 第8回 ドイツ工作連盟における規格化論争 第9回 イタリア未来派とマニフェスト 第10回 オランダのデ・ステイル—モンドリアンの新造形主義— 第11回 ロシア・アヴァンギャルドの宣伝芸術—シュプレマティズムと構成主義— 第12回 アール・デコのインテリアとファッション 第13回 インダストリアル・デザインの誕生—流線型とレイモンド・ローウィー— 第14回 ミッド・センチュリー・デザインとチャールズ・イームズ 第15回 まとめ、定期試験			
キーワード	美術、デザイン、建築		
教科書・教材・参考書	教科書: 阿部公正『世界デザイン史』美術出版社 参考書: 末永照和『20世紀の美術』美術出版社		
成績評価の方法・基準等	定期試験 60%、授業内に提出する小論文 40%とし、評価を行う。		
受講要件(履修条件)	美術やデザイン、歴史に関心があり、文章を書くことを厭わないこと。		
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)			